

資料 1-2 日本霊長類学会会員を対象としたアンケート調査結果

表 1 研究対象区分(重複あり)

属性	回答数(割合)
飼育霊長類(実験動物、国内・国外を含む)	16(22%)
飼育霊長類(動物園等の展示動物、国内・国外を含む)	11(15%)
野生霊長類(野猿公苑等の餌付け群、国内)	12(16%)
野生霊長類(野猿公苑等の餌付け群、国外)	4(5%)
野生霊長類(非餌付け群、国内)	12(16%)
野生霊長類(非餌付け群、国外)	16(22%)
化石、標本等(非生体)	2(3%)

表 2 研究対象種(重複あり)

分類	回答数(割合)
曲鼻猿類	4(7%)
広鼻猿類	6(11%)
狭鼻猿類(オナガザル上科)	28(49%)
狭鼻猿類(類人猿)	19(33%)

表 3 研究対象個体との最短距離

表 3-1 飼育霊長類を研究対象とする研究者

個体との距離	回答数(割合)
接触	14(64%)
5m 以内(非接触)	7(32%)
10m 以内(非接触)	0(0%)
10m より遠い(非接触)	1(5%)
計	22(100%)

表 3-2 野生霊長類のみを対象とする研究者

個体との距離	回答数(割合)
接触	2(13%)
5m 以内(非接触)	7(47%)
10m 以内(非接触)	4(27%)
10m より遠い(非接触)	2(13%)
計	15(100%)

表 4 バイオセーフティ事故に関する予防・管理体制

	あり(割合)	なし(割合)	不明(割合)	計
講習会の受講	25(66%)	13(34%)	0(0%)	38
	17(63%)	10(37%)	0(0%)	27
対応マニュアル	21(55%)	12(32%)	5(13%)	38
	14(52%)	9(33%)	4(15%)	27
相談医師	17(45%)	14(37%)	7(18%)	38
	11(41%)	11(41%)	5(19%)	27
事故発生時の締結病院	13(34%)	16(42%)	9(24%)	38
	8(30%)	13(48%)	6(22%)	27

下段は生体試料(組織、血液、糞、尿、毛など)のサンプリングを行う研究者の内数

表 5 研究者自身が行う研究実施時の感染症予防対策

(1) 飼育霊長類を研究対象とする研究者（野生霊長類も研究対象とする者を含む）

感染予防対策	実施(割合)	非実施(割合)	計
検温	12(55%)	10(45%)	22
検疫(体調が悪いときは実験や観察を行わないなども含む)	20(91%)	2(9%)	22
専用衣服、靴の着用	18(82%)	4(18%)	22
マスクの着用	20(91%)	2(9%)	22
フェイスシールド、ゴーグルの着用	9(41%)	13(59%)	22
手袋の着用	18(82%)	4(18%)	22
手洗いの励行	20(91%)	2(9%)	22
手指のアルコール消毒	14(64%)	8(36%)	22

(2) 野生霊長類のみを対象とする研究者

感染予防対策	実施(割合)	非実施(割合)	計
検温	4(27%)	11(73%)	15
検疫(体調が悪いときは実験や観察を行わないなども含む)	9(60%)	6(40%)	15
専用衣服、靴の着用	3(20%)	12(80%)	15
マスクの着用	7(47%)	8(53%)	15
フェイスシールド、ゴーグルの着用	0(0%)	15(100%)	15
手袋の着用	3(20%)	12(80%)	15
手洗いの励行	7(47%)	8(53%)	15
手指のアルコール消毒	4(27%)	11(73%)	15

表 6 結核に対する意識等

質問	はい(割合)	いいえ(割合)	計
結核は人獣共通感染症であることを知っているか	34(89%)	4(11%)	38
サルの結核は届出感染症であることを知っているか	22(58%)	16(42%)	38
サル用ツベルクリンが利用できなくなったことを知っているか	17(45%)	21(55%)	38

表 7 研究実施における感染症に対する意識(生体を扱う研究者のみ)

	常に	ときどき	あまり して いない	ほとんど または全く していな い	分からない	計
人獣共通感染症 蔓延防止について 意識しているか	29 (78%)	7 (19%)	1 (3%)	0 (0%)	0 (0%)	37
結核蔓延防止に ついて意識して いるか	13 (35%)	9 (24%)	13 (35%)	1 (3%)	1 (3%)	37